

山本・栖吉地区

(新潟県長岡市)

- 計 画 期 間 平成 17 年度～平成 21 年度
- 面 積 880ha
- 交付対象事業費 569 百万円
- 市人口 267,642 人 (地区内人口 8,200 人)

ポイント 被災箇所や危険箇所を整備し、防災施設を整備することにより、災害に強くなるおいのあるまちづくりを実現する。

地区概要 当地区は平成 16 年に 7.13 水害・中越地震で甚大な被害を受けた地区であり、生活道路や公園等の生活基盤施設の機能回復を行い、地区の再生を図る。

目 標 小規模被災箇所の補修や危険箇所の整備を行い、地域防災性・安全性の向上を図る。また、防災施設の整備を行い、防災機能の強化を図る。

指 標 悠久山公園の調整池の整備等により、うるおいのある空間を形成する。また道路の危険箇所を整備し、災害時の避難・連絡路を確保する。

公園来園者数	445,100 人	(H16)	→	545,300 人	(H22)
危険箇所復旧率	20%	(H16)	→	97%	(H22)
自主防災組織の 会議	1 回/年	(H16)	→	4 回/年	(H22)

事業内容 基幹事業 (559 百万円) → 道路 (改良 : 幅員 6.0～10.5m、延長 1,512m 改修 : 延長 560m)、公園 (調整池機能回復)、防災施設整備 (耐震性貯水槽 2 箇所、情報伝達施設 4 箇所)
提案事業 (10 百万円) → 地域防災マップ及び情報伝達コンテンツ提供マニュアル作成、悠久山公園再生整備計画書作成、まちづくり交付金事業実施に関する成果検証及びまちづくり方策検討業務委託



地区の現況と課題

当地区は地形的には丘陵地から平野部に変わる位置にあり、すそ野に唯一の幹線道路である県道が走り、各集落からの生活道路がこの幹線道路へ接続している。生活道路は地形的な制約から曲がりくねり、狭隘な道路が多く、背後には多くの急傾斜崩壊危険区域や砂防河川の指定区域を抱えている。水害・地震により生活道路は大きな被害を受け、また被災しなかったものの危険な箇所が多数存在することから、早急な修繕や改良が必要であった。

事業実施により地域の防災性・安全性が向上したが、今後も引き続き、災害時等に避難路となる狭隘な道路の拡幅改良を実施し、道路ネットワークの形成を図るとともに、組織化された自主防災会等による情報伝達体制の拡充を図る必要がある。

提案事業の特徴

悠久山公園再生整備計画調査

憩いの場である「悠久山公園」の再生整備計画の策定にあたり、その基礎資料となる利用実態調査と市民意識調査を行う。

地域防災マップ及び情報伝達コンテンツ提供マニュアル作成業務

住民の防災意識の醸成に向け、住民の手による地域防災マップづくりの支援を行い、地域の特性に見合った防災まちづくりに結びつける。また、災害情報の提供を、発災前、発災後、避難までの一連の流れを想定し、有効なコンテンツを検証する。

まちづくり交付金事業実施に関する成果検証及びまちづくり方策検討業務委託

都市再生整備計画の目標の達成状況等について確認を行うとともに、今後のまちづくりの方策について検討を行う。

計画策定プロセス

水害・地震後においては、国の災害査定が入り、査定結果に基づいて災害復旧事業が行われるが、国の補助対象に満たない被害箇所も多数存在した。当初は市の単独事業にて対応する予定だったが、まちづくり交付金により道路修繕でも国の支援が得られることから、同交付金で実施することにしたものである。

道路修繕だけでなく、地区として災害に強いまちづくりを目指すため、関係各課と協議し本計画を定めるに至った。



▲水害後の様子（浦瀬町地内）



▲完了後（浦瀬町地内）



▲水害時の様子（悠久山公園）



▲完了後（悠久山公園）



▲栖吉小FM拡声器